

平成 24 年度 海外臨床薬学研修報告書  
「2 週間の研修で得たもの」

---

研修期間：平成 24 年 8 月 19 日～9 月 1 日

研修先：南カリフォルニア大学薬学部

薬学部薬学科 5 年

080973170

吉川 歩美

5月下旬、南カリフォルニア大学薬学部(USC)での臨床薬学研修参加が決定した。この時丁度 I 期の病院実習が始まったばかりであったため、私はこの海外研修に参加するにあたり、日本の病院薬剤師の役割、臨床現場の様子、治療に対する取り組みなどをしっかりと学ぶことを目標とし、11 週間の実習に臨んだ。そして 2012 年 8 月 19 日から約 2 週間のアメリカでの臨床薬学研修が始まった。では、今回は特に印象に残っているクリニカルツアーについて報告する。

はじめに研修 8 日目に訪問した El Monte PHARMACY について報告する。ここでは日本では薬剤師が行う業務を、4つの職種(薬剤師・クラーク・テクニシャン・レジデント)に分かれて行っていた。クラークが処方箋受付・入力を行い、テクニシャンが調剤し、薬剤師とレジデントが鑑査・投薬・疑義照会を行う。このように業務を分担することで薬剤師の負担は少なくなり、より専門的な業務に専念できるというメリットがあると感じる反面、いくら処方箋受付・入力のような事務的な業務であって薬の専門家が行うべきではないだろうか、とも感じた。実際自分も含め薬局に来る患者は、“手早く薬が欲しい、待ちたくない”という人が多いと思う。そのため処方箋受付の際のわずかな時間でも患者とコミュニケーションをとり、そこで患者の不安や疑問を聞きだし、解決することも薬剤師にとって大切な業務であると思う。また、El Monte PHARMACY の調剤室では、一般的な調剤以外にデリバリー業務も行っていた。このシステムは、自分では薬の管理が困難な高齢者や介護を必要とする患者に対し、錠剤やカプセルをシート化してデリバリーするというものである。シートには 31 個の穴があり1ヶ月分の薬が 1 日ずつ取り出せるようになっているため、服用状況が一目でわかる。また、朝・昼・夜の服用状況がチェックできるシートや薬歴が記載されたシートなどが同封されており、患者家族や医療スタッフが薬を管理しやすいように工夫がされていた。この研修では日本との違いに驚くことばかりで、戸惑うことも多かったが、患者とスタッフのコミュニケーションや調剤室での様子を自分の目で見ることができ貴重な経験となった。

次に 10 日目に訪問した Norris cancer center での研修について報告する。ここは USC の提携病院の1つで、主にがん患者の外来化学療法を行っている。研修内容としては、Norris cancer center の概要、薬剤師の業務内容などの説明を受け、その後病院内の様々な施設の見学をするというものであった。最初に見学した無菌室では、テクニシャンが抗癌剤の調製していた。そして安全キャビネットに備え付けてあるカメラがテクニシャンの手元を映しており、無菌室の外からモニターを通して薬剤師が監査するというシステムであった。私は、薬剤師以外が抗癌剤の調製をするということに驚きと不安を感じた。しかし、テクニシャンはインターンやテストなどにより特別な訓練を受けており、このような業務をテクニシャンが行うことで薬剤師はよりベッドサイドでの患者コミュニケーションに時間をかけることができるというメリットがあるとわかった。実際、病院実習では薬剤師として患者にとってより良い治療を提案するには、患者の苦痛や悩み、不安をじっくり聞く時間とコミュニケーション能力が必要だと感じていたため、このようなアメリカのシステムにとても魅力を感じた。また、化学療法を受けるベッドエリア・チェアエリア、外来窓口や待合室などの見学することができた。特に日本との違いを感じることはなかったが、非常に綺麗で広々とした作りであり病院とは思えないほどであった。がん治療を受けている患者にとって、“病院”という重苦しい印象を少しでも和らげるためにも、直接治療につながるわけではないが、このような病院を感じさ

せない空間作りは非常に大切であると感じた。

翌日、研修 11 日目は Plaza Pharmacy を訪問した。ここは USC が経営する門前薬局で、1 日約 350～400 枚の処方箋を受け付ける。薬剤師 3 人、テクニシャン 5 人ほどが業務にあたっていた。研修内容としては Plaza Pharmacy の概要、薬剤師の業務内容などの説明を受けた後、薬局内の見学をするというものであった。そしてこの研修で、初めて薬剤師の診察室も見学することができた。この診察室には週に 3 日、1 日 6～7 人の患者が訪れ、ワクチンの接種や旅行先での注意点（飲料水など）の指導をするトラベルカウンセリング、禁煙療法のサポートなどを受けることができる。私はまだ薬局実習を経験していないため、日本の薬局における薬剤師業務については把握できていない部分もあるが、アメリカの薬剤師は薬局でも医師、看護師に近い業務を行うことができ、日本によりもはるかに進んでいることがわかった。そのため、調剤などの業務はテクニシャンが行うというシステムにも納得することができた。

この 2 週間の研修では、薬局や病院で臨床薬学について学び、USC でアメリカの薬学教育を体感し、また休日にはアメリカの文化や壮大な自然に触れることもでき、本当に貴重な経験となった。また、名城大学の学生だけでなく多くの大学の生徒と接する機会が多く、情報交換し、共に学べたことが今もなお自分にとって非常に良い刺激になっている。そして今回の研修は全員 5 年生であったため、各々が病院実習や薬局実習、自分の取り組んでいる研究で得た経験を活かし、クリニカルツアーや講義に参加することができた。この研修で得た知識や経験を、薬局実習など今後の学生生活、さらには将来につなげていきたいと考えている。

最後に、この研修では USC の先生や学生、各大学の先生、学生のみなさんには大変お世話になりました。そしてこのような機会を与えて下さったことに深く感謝しております。ありがとうございました。